

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



「桜馬場」は、江戸時代、馬術調練場の堤に桜を植えたのがその名の由来だが、全国に20ヶ所近く残る地名である。葦陽分教会の存する福山市桜馬場町には110年の歴史を誇る食の中間原料品メーカー・池田糖化も本社を置いている。

「葦陽」は、一説では葦田川(芦田川)の北側にあり、小高い陽のあたる山の南側に位置していたところから付いたとも言われ、福山城は、別名で「久松城」・「葦陽城」とも呼ばれた。

立教181年
4月号



肩組みジャンケンゲーム

少年会笠岡団(武内正美団長は、3月21日大教会祭典後、テッチャンシアターを開催させていただきました。今回の担当は、掛谷宣和先生です。まず、2人1組でジャンケンをし、勝った人が前に来て肩を組み、その状態のまま別の人とまたジャンケンを行い、また同じように肩を組み、やがて最後には1列になり、だんだんとみんなの歓

「テッチャンシアター」開催
3月月次祭後
少年会

立教181年「春の学生おぢばがえり」が3月28日、「次代を担うようぼくへ」をテーマに親里で開催された。真柱様ご夫妻、大亮様ご夫妻ご臨席のもと、本部中庭で行われた式典には、道につながる全国各地の高校生・大学生ら4千892人(笠岡からは43人)が参集した。
お言葉に立たれた真柱様は、「教会を身近な存在にしてほしい」と、陽気ぐらしの拠点である教会へ足を運ぶことの大切さを諄々と諭された。

「次代を担うようぼくへ」
春の学生おぢばがえり
本部中庭で
学生会

声が上がってきたところで、円になりました。その後、形容詞ゲームが始まり、先生が予め用意した文章に、所々言葉を入れるスペースを設け、みんなから形容詞を挙げてもらい、朗読しました。笑いあり、意味深長な表現などあり、言葉遊びを愉しみました。ありがとうございました。
(少年会委員 藤井保人)



大教会長様のご挨拶

このほか、会員代表による感話などが行われた。



春の学生おぢばがえり「参加者達」



熱心にファイフ練習

笠岡むつみ鼓笛隊は、3月30日から

「春の鼓笛合宿」行う
3・30〜4・1 大教会で
笠岡むつみ鼓笛隊

式典終了後は、「直属アワー」の時間が設けられた。詰所にて大教会長様の挨拶があり、その後、班ごとに会食。午後からは、親睦を深める事を目的に、学生自らが企画した室内オリピックが開催され、同じ笠岡につながる学生同士の絆を深めた。



神殿に鳴り響く鼓笛の音

4月1日朝まで、隊員約60人、係員30人が大教会に於いて合同合宿を行いました。

「おつとめの出来る少年会員を育てよう」と隊員、係員心を一つに、昼は練習に励み、夜はお楽しみ行事で親睦を深め、また2日目の夜は、おつとめ総会に出る子はそれぞれおつとめ、祭儀式、雅楽の練習、その他の子供達はバルーンアートで楽しいひと時を過ごしました。

笠岡むつみ鼓笛隊では全教会からの参加を目指しているので更なる隊員、係員の参加をお待ちしています。

少年会笠岡団(武内正美団長)は、4月1日、大教会で「おつとめまなび総会」を開催しました。参加者は少年会員242人、育成会員223人、総数465人(受付数)でした。

今年、桜の木も一際満開に咲き誇る中、開催され、日曜日とあつて約500人近い参加者の御守護を頂いて、賑やかに勤めさせて頂きました。模擬店も、東ブロック(スイーツ)、西ブロック(カレー)、福山ブロック(ホットドッグ)、高屋ブロック(焼きそば)、島根ブロック(コーンスープとジュース)、上下ブロック(チキンナゲット)、府中市(射的)、久松ブロック(スパーボールすくい)とボリューム満点で、大人も子供も大満足のメニューとなりました。また、ステージでは、ダンス、クイズ、抽選会と大変な盛り上がりでした。年に1度のこの総会は、個々の教会で子供におつとめを教え共々に練習し、大教会でつとめさせて頂く大変意義深い

おつとめまなび総会
開催

4・1 大教会

少年会



盛り沢山のアトラクションに溢れる笑顔

行事であります。毎年、開催させて頂くことに、大教会長様もたいへんお喜びになっておられます。将来、個々の教会の重要なよふぼく育成の場となっているこの総会、皆様と共にさらに内

容のあるものになるよう、ご助言を頂いて努めてまいりたいと思っております。で、今後とも宜しくお願い致します。

(少年会委員 中村剛史)

第2回 アフリカ孤児 支援バザー開催

4・8 大教会で

海外部



盛況だった模擬店

昨年、良かったから今年も開いてねーという沢山の声を頂いて4月8日(日)に、大教会で2度目の「アフリカ孤児支援桜祭りバザー」を開催しました。
目的は、孤児たちの生活支援のため。今年では先立って2月の終わりに10回目の訪問をし孤児院などに、食事代などの目的で昨年、集まった千100ドルを寄付させて頂いた。



井原ウィンドアンサンブル
吹奏楽団の皆さん

もう一つの目的は、支援活動を教会以外の人達に認知して頂くためである。一人でも多くの近所の人達に来ていただきたいという思いを持って開催させて頂いた。
海外部員6人の行事にはは大きくぎる気もするが、沢山の有志の方々や心寄せを頂いて、今年も行事を持たせて頂く事が出来ました。
バザーの品を提供して下さいました方々、仕分け・値付け作業に参加して下さいました方々、会場の準備・設営や模擬店を持つてくださった方々。当日スタッフとしてお手伝い頂いた方々、皆様に心からお礼を申し上げます。有難



笠岡雅楽の演奏

うございました。売り上げは次回の孤児院訪問で状況を見て寄付させて頂き



講堂でのバザー



子供有志によるダンス



支援バザーの御礼に駆けつけた
天理教語学院のステイブ君

ます。
(海外部 上原志郎)



修養科でお与え

いただいたモノ

稲倉分教会 大月 勇 樹

私は昨年の5月1日に仕事上の事故で、右足の小指と薬指の切断という大きな身上の節を与えられました。それによって入院し、その中で修養科を志願しました。7月8日に退院して、ま

ず教会へと参拝して、会長さんと何月から修養科へ行くか話し合い、身上の状況や人気という事から4月からの志願を希望していました。

ところが父から前会長が「1月から行ったらどうか。」と言われた事を聞いて、少しでも早く行けるのであればその方が良くも思えないと思い、1月からの修養科を志願しました。すると色々な方から「1月は寒いぞ。もしかしたら笠岡からは1人かも知れないよ。」などと教えていただき、最初は不安になりました。

きな節を見せていただいた事で、色々な事を学ばせていただきました。その中の一つが、どんな困難な事でも心さえ喜べたら何も恐れる事は無いということでした。私は身上をいただいた日から、ずっと笑顔でいる事が出来ました。それはなぜかと言うと自分さえ元

気で明るい姿であれば、周りの人も安心して笑顔になるという事に気づいたからです。だからたとえ1人であつても、それは今の自分に合った環境を親神様が与えていただいているのだと思

た。その時、心がけた事は常に相手の顔を見て話すという事でした。その心がけてわかつた事でした。それによつてすぐ組の仲間と仲良くなる事が出来ました。

1ヶ月目は、正直慣れる事に必死でいつの間にか終わっていたという感じでした。2ヶ月目に入り、特別ひのきしんで、ある1人の修養科生に出会いました。私が杖を持つているのを見

かりを願う事で、自分自身の身上をたすけていただいていたのです。一方で私も3ヶ月目に入った頃からそれまで持っていた杖を持たなくても歩けるようになりました。これも自分が自分の

身上では無く相手にたすかつてもらいたいというその心に、親神様は御守護下さったのだと思い、本当に嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

私が修養科を志願した理由は、自分の身上によつて喜べた事を活かして、自分にしか出来ないおたすけとは何なのかという事を見つけたという心

で、修養科を志願しました。修養科では老若男女津々浦々からさまざまな理由で寄り集まった同期の仲間に出会

ました。私がまず修養科で実行した事は、自分から1人1人に声をかける事でし

た。その時、心がけた事は常に相手の顔を見て話すという事でした。その心がけてわかつた事でした。それによつてすぐ組の仲間と仲良くなる事が出来ました。

1ヶ月目は、正直慣れる事に必死でいつの間にか終わっていたという感じでした。2ヶ月目に入り、特別ひのきしんで、ある1人の修養科生に出会いました。私が杖を持つているのを見

た。その時、心がけた事は常に相手の顔を見て話すという事でした。その心がけてわかつた事でした。それによつてすぐ組の仲間と仲良くなる事が出来ました。

談話室



磨き上げれば

ビエン・J・K

▼檜木の床柱

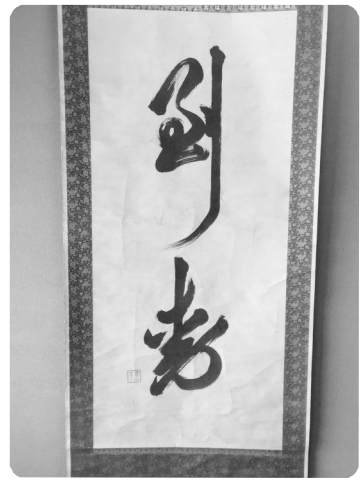
十数年前のことだが、広島県の山間にある静かな町の教会に参拝させていただいたことがある。

町内に分水嶺を持つことから「上下」と称され、かつては石見(現在の島根県太田市を中心とする地域)の銀を中継する江戸幕府の天領として地方の交通経済の中心的役割を果たした町である。また、明治の作家田山花袋の小説『布団』の舞台ともなった歴史と文化の香る町でもある。

その教会で講話を終え、通っていただいた立派な客間には、たつぷりと墨を使い、雄渾(ゆうこん)でありながらも実に爽やかで素直な筆致の見事な書が掛けられていた。

しかも少し視線を変えると黒髪(くろかみ)の優しい女性(おんな)の後ろ姿(うしろすがた)のようにも見え、何も言えずじつと見入っていた。すると、その教会の重鎮(じゅうしん)である先生

が「本席(ほんせき)様の御親筆(ごしんぴつ)ですよ」とお教え下さり、なるほどなあと改めて感動した。



それからしばらくして、すっと視線を脇(わき)に遣(や)ると、複雑(ふくざん)に捻(ね)じ曲(ま)がり瘤(こぶ)だらけのつやつやと輝(きら)く見事(みごと)な床柱(とこばしら)に気づいた。

それは、まるで「御親筆(ごしんぴつ)」を引き立てるかのよう(よう)に、床(とこ)の間に充分(じゅうぶん)な重み(おも)と風格(ぶっかう)を持たせ、しかもドキッとさせる存在(존在)感を醸(か)み出し出(で)していた。

「それは、モロウギという木(き)でね……」と、役員(やくいん)先生(せんせい)は遠(とほ)い日の初恋(はつこい)を語る(か)かのような優(やさ)しい表情(へいしやう)を浮か(う)かべ、床柱(とこばしら)の由緒(よしゆ)を説明(せつめい)して下さ(くだ)った。

その先生(せんせい)の話(わたり)を元(もと)に想像(さくご)すると、次のような情景(けいけい)が浮か(う)び上(あ)がる。

昭和32年(しやうわ32ねん)の早春(そうしゆん)だった。先生(せんせい)が、町の南(みなみ)に隣接(りんせつ)する甲山町(かほやま)のT氏宅(ていしやく)の講社(こうしゃ)

祭(まつり)に運(た)んだ時のことである。

近く(ちかく)にある裸山(はだかやま)の頂上(ていじやう)をふと見ると、ポツンと一本(いっぽん)の古木(こき)が立(た)っている。

そこでT氏(ていし)に尋(たず)ねると、

「なんでもモロウギという木(き)だそうです」と、答(こた)えられた。

「もしかすると……。」

先生(せんせい)は、期待(きたい)に胸(むね)を膨(ふ)らませながら山道(やまみち)を案内(あんない)していただいた。

頂上(ていじやう)まで登(のぼ)り、傍(そば)で見(み)て驚(おどろ)いた。

それは常に強(たか)い風雨(かぜあめ)に曝(あび)される山頂(やまて)にしつかりと根(ね)を張(は)った、今までに見たこと(こと)もない「檜(ひノ)木(ぎ)」の捻(ね)じれ大木(おほき)だった。

持ち主(もちぬし)を訊(き)けば、先生(せんせい)の友人(とも)人(ひと)、K氏(けいし)である(である)という。

当時(たうじ)教会(きやうかい)は移転(いせつてん)建築(けんちく)の計画(けいかく)中で、普請(ふしん)の総世役(そうせやく)に抜擢(はくたく)されて(されて)いた先生(せんせい)は、早速(さつそく)友人宅(ともだちやく)に向(むか)った。

「あの山(やま)のモロウギ木(き)を見(み)せてもろうたよ。突然(とつぜん)じゃが、僕(ぼく)に譲(ゆづ)ってもらえんじやろうか」

「えらい、突然(とつぜん)じゃのう。ほんまに」

「実は(じつは)この度(たび)、上下分教会(じやうげぶんきやうかい)の移転普請(いせつてんふしん)をする(する)こと(こと)にな(な)って、僕(ぼく)はその工(くわ)事の(こと)総世役(そうせやく)をする(する)こと(こと)にな(な)ったんじや」と言い(い)ながら先生(せんせい)は、いつも持ち歩(もってある)いている設計図(けいけいず)を鞆(かばん)から取(と)り出(で)した。

「今(いま)この客間(きやくま)に力(ちから)を入(い)れとるところ(ところ)な

んじや。将来(きやうらい)、『真柱様(まはしらさま)』いうてな、天理教(てんりきやう)で一番偉(いちばん偉)い人(ひと)が来(き)られる(られる)かも

しれん。上下町(じやうげぶん)としても宗派(しゆはい)の本山(ほんやま)管長(くわんぢやう)が巡教(じゆんきやう)された(された)こと(こと)は(は)ない。こりやあ町(まち)としても榮誉(えいよ)なこと(こと)じゃと思(おも)わんか」

先生(せんせい)は友人(とも)人(ひと)の顔(かほ)を見据(みぢ)え、言葉(ことば)を続(つづ)けた。

「先(ま)の話(わたり)じゃやけど、その管長(くわんぢやう)さんが座(ざ)る客間(きやくま)に据(す)えるんじや。予算(よさん)はよ(よ)うけないんじや。ほうでも、なんと(なんと)か頼(たの)めんかのお」

「ちよつと待(まち)て……」

練炭(れんたん)火鉢(ひばち)にかけ(か)けられた薬缶(やかん)の蓋(ふた)が湯(か)気でカタカタ動(うご)いていた。

K氏(けいし)は腕組(うでぐみ)みをして、しばらく考(かん)えてからおもむろに口(くち)を開(ひら)いた。

「そんな大物(おほなもの)が来(き)て座(ざ)られる客間(きやくま)の床柱(とこばしら)なら、献納(けんなん)させ(させ)てもらうよ」

「えつ、ほんまか。そりやあ嬉しいわ」

「あんた、簡単(かんぱん)に『嬉しい』言う(い)うけど、あの木(き)の値打(ぢうち)ちは知(し)つとるんかね」

「もちろん、分(わ)かつとるよ。ハハハ」

「先日(せんじつ)、十(じゅう)万(まん)円で売(う)って欲(ほ)しいという客(きやく)が来(き)たところ(ところ)じゃやけど、二十(にじゅう)万(まん)でも駄目(だめ)じゃやうて断(ことわ)ったところ(ところ)じゃやつた、ハハハ。と(と)ころで、一杯(いっぱい)やっ(や)つてい(い)かんか。」



現在約20万円の大卒初任給が、当時1万3千円くらいであったから単純に比較できないが、今の値段に換算すれば恐らく3百万円近い逸品であろう。

先生は、深く、厚くお礼を言つて、早速切り出して教会に持ち帰り、大勢の信者さん方と共に仕上げのひのきしんにかかったが、ねじれ曲がりこぶができた「榿」の樹皮を竹べらで全部慎重に剥いてから丁寧に磨き上げなければならなかったのだ、大変なことだったということである。

3百万もの値打ちがある木をポンと献納したK氏の心意気と気前の良さは、賞賛されるべきものである。

しかし、そこに至るまでには、きっと教会につながる方々や先人の先生方の徹底した神一条、助け一条の伏せ込みがあつたに違いないと、私は思うのである。

後日談ではあるが、真柱様が上下分教会に入りこまれたのは昭和49年のことであつた。

それよりもひねた木からたんとていりひきつけあともよぶを

(おふでさき 第七号 十九)

とお教えたいたくように、たとえどのようにに厳しい過酷な環境に育ち、複雑に捻じ曲がりひねられていたとしても、神様に引き寄せていただき教えの理によつて心を磨き上げ、「よふぼく」として生まれ変わったならば、この見事な床柱のような役割を果たせるのではないだろうか。



※このエッセイは平成16年4月号『陽気』に掲載された拙文「磨き上げれば」から床柱の部分だけを抜粋し、事実関係を上下分教会長山野氏と再度見直してから寄稿したものです。

お話の参考としてご利用下さることには結構ですが、無断転載等は厳にお断りいたします。

塩と水

稲富士分教会 須毛田 英 尋

敵に塩を送るという程、塩は人が生きていく上で水に次いで不可欠な物質である。学生の頃アパートの一室で某デパート提供のラジオパーソナル番組を聞いていた。昔ある殿様が家臣を集めこう尋ねた。この世で一番美味しい物は何であるかと、殿様はそれを口にしたかったのだらう。種々な答えが返ってきた。すると1人の家臣が答えた。それは塩ですと。ふざけた答えに殿様はたいそう怒った。その家臣は返した。ならばお殿様、焼魚もお吸物も煮物も全て塩抜きで召し上がって下さいませと。その後殿様は試した。すると今まで美味しいと思つて食べていた物が、塩が無いとこうまで味けないも

のなるものかと、随分その家臣に詫びを入れたという。とは言え塩だけ食べなくても塩からいばかりで美味しくはない。塩だけが一人歩きできるのはせいぜい土俵にまくか、玄関に盛るか、なめくじにかけるくらいだ。塩は言わば最も大切な引き立て役、自己主張して自分が主役になるのではなく脇役に徹し、しかも水など相手に溶け込んで姿さえ見せない最高の陰徳の心。刺身もにぎり寿司も美味しく頂けるのは醤油があればこそ、醤油から塩分を取るとどんな味になるか想像できよう。

朝、目が覚め、人はまず一番にすることは何だらう。人各々違う答えが返つて来そうだが、答えは一つである。それはまぶたを開ける事だ。ではなぜ何時間も目をつぶっていたにも拘わらずまぶたが開くのだろうか。それは目のおいと言つて目がうるおっているからだ。起きた瞬間から水の世話になっている。次はトイレに行き、顔を洗ひ、台所で水の世話になる。一日の終わりも風呂と飲み食いで終わる。また一日中生きておれるのは呼吸ができるから。何のために呼吸をするのだろうか。それは空気中の酸素を摂取しないと生きられないからだ。ではその酸素は誰

が造っているのだろう。人間が造っているのだろうか。否、それは植物の葉っぱなのである。ではその植物群が生成できるためには何が必要か。それは水である。即ち天から降りそそぐ雨なのだ。ここまで思うと水に大恩を思い、雨に不足心は起きなくなる筈。世間では雨になりそうな時、天気が崩れるとか、天気が悪くなるとか。下り坂の天気になるとかマイナスの表現を使うが、反省しないといけないと思う。洗濯物がかわかなくなるではないかと異議をとなえられそうだが、では洗濯は何を使っているだろう。水で洗濯できた事を喜んだかどうか。鍋に先に水を入れ湧かす。浴槽に水を張り薪をくべ。土を水でこね、型を作ってかまどに入れる様に先に働くのは水で、火は次であるから、家庭でも夫が先に起きるといい家庭ができるという。男は水の理と言われ、良く働き、かついばらず常に低い心、低い頭で通り、例えば女房に誉められなくても、しおがないなあとたんのうするのが塩と水の心。真水より塩水の方がより重い物を浮かす事が出来るのはまさに答えがでていと思う。

平和公園でのにをいがけ

稲倉分教会 北川 恵美子

3月23日、広島記念公園で外国人を対象としたにをいがけがあり、大教会から4人、高屋分教会から3人参加させて頂きました。

前日まで雨が続いていましたが、この日は快晴で、少しひんやりしていましたが、風もなく気持ちのいい日和でした。

現地に着くと、まず初めにおちばの方角に向かってよろづよ八首を踊らせて頂き、その後3つのグループに分かれてにをいがけに廻りました。

園内を歩いていると、団体で来られたり、個々で来られていたりの外国の方が多くおられました。ボランティア

スタッフの説明を、質問しながら熱心に聞いていたり、折り鶴の飾りを作っている人もあつたりと、平和に対する関心の高さを感しました。



平和公園での「よろづよ八首」

今回声を掛けさせて頂いた方々は、イギリス、カナダ、スペイン、ドイツ、オーストラリア、イスラエル、フランス、スウェーデンなど、全体で11ヶ国にのぼりました。

どの方も宗教のお誘いに身構えることなく、笑顔で関心を持って聞いて下さり、パンフレットも快く受け取って下さいました。

今回初めての参加でしたが、平和記念公園を訪れている海外の方は、平和を祈っているからか、宗教に抵抗がないように感じました。

普段は、身近なところに心を置いて動かせて頂いています。今回のように海外の方に対して活動すると、視野も広がるので、良い経験をさせて頂いたと思います。

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されてしまったので転載いたします。(敬称略)

『天理時報』

▽3月18日付「時報俳壇」

・備中⑤ 塩飽利子さん
試歩の杖暫し休めて初音かな

▽4月1日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡⑥ 池田広子さん
雛祭りに桃の花をと岡山より
航空便にて沖繩に送る

『陽気』誌4月号「道柳」より転載。

▽秀 詠

・東悠④ 田林美智子さん
ゆずり合いたすけ合いつつ陽気なる

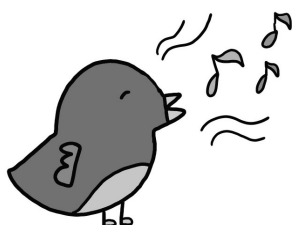
・芳井④ 佐藤香苗さん
陰陽なた無き道歩む真実の道

▽佳 詠

・川島郷④ 香取敏子さん
節幾重ただ一すじの陽を求め

▼表紙写真

(上原繁次かさおか編集部員)



タンザニア 訪問記



芳井分教会
佐藤 孝 祐

2月25日から3月8日までの約10日間、アフリカのタンザニアにいかせてもらいました。正直に言うと、親が毎年行っていたので、自分も行きたいなという気持ちと、外国に行ったことがなかったのいい経験にもなるぞ、といった本当に軽はずみな気持ちで行きました。しかし、タンザニアについて初日から、街並みや衛生面を見て、不安に駆り立てられ、タンザニアに来たことをすぐ後悔しました。命にかかわるような蚊もいて、夜は全然眠れませんでした。その夜、ずっとせきこんでいた僕のために、ようぼくであるステイブがおさづけを取り次いでくれました。ステイブの一生懸命に取り次いでくれる姿を見て、自然と涙が出てきました。あいまいな日本語だし、国は違うけど、みんな困って



村の子供たちと



アマーニ孤児院で子供たちと時間を過ごす



アルーシャ市の小学校にサッカーボールを寄贈する



元芳井の車と再会

間、アフリカのタンザニアにいかせてもらいました。正直に言うと、親が毎年行っていたので、自分も行きたいなという気持ちと、外国に行ったことがなかったのいい経験にもなるぞ、といった本当に軽はずみな気持ちで行きました。しかし、タンザニアについて初日から、街並みや衛生面を見て、不安に駆り立てられ、タンザニアに来たことをすぐ後悔しました。命にかかわるような蚊もいて、夜は全然眠れませんでした。その夜、ずっとせきこんでいた僕のために、ようぼくであるステイブがおさづけを取り次いでくれました。ステイブの一生懸命に取り次いでくれる姿を見て、自然と涙が出てきました。あいまいな日本語だし、国は違うけど、みんな困って

いる人を救ってやりたい気持ちは同じなんだ、と気づきました。次の日から、いろんな人におさづけを取り次ぎました。みんな重い病気を持っているはずなのに、すごく感謝してくれて、自分まで助かった気分でした。これは「人を助けてわが身助かる」と教えてくださった教祖の教えそのものでした。日本では気づこうにもなかなか気づけなかったこの教えを実際に体感できて幸せでした。言い過ぎかもしれませんが、その当時の自分の先祖や、他の天理教の方々の思いを理解できた気がしました。

今回の海外布教では、3つの孤児院に行かせてもらいました。どちらの孤児院にも子供たちが遊べるようなものは少なく、飴をあげるだけでとても喜んでくれました。街を歩くと、働いている子供たちをたくさん見かけました。でも、つらそうな顔は全くしていませんでした。日本人なら、手伝いをして、と言われただけで嫌な顔をするのに、何倍もつらい仕事をしている彼らのほうが幸せそうに見えました。これは天理教の教えでいう「たんのう」の心だと思いました。日本にはものがありすぎて、あれがほしい、これがほしいとすぐに不足不満をいつてしまいます。しかし、タンザニアの人々みたいに、自分の生活に満足できていたら、どれだけものをもっていなくても、どれだけ病気があっても、幸せに暮らせることができるのだと改めて感じました。

※佐藤孝祐君・芳井分教会長長男、関西外大外国語学部英米語学科2回生。今回タンザニアに行かせてもらって思ったことは、天理教の教えは僕たちが人間が楽しめるように、陽気ぐらしかできるような良い方向へと導いてくれているのだと、実感しました。自分が教えてもらった天理教の教えを肌で感じることで、自分の中の天理教を見つめ直すことができました。日本の当たり前が、タンザニアでは当たり前じゃありませんでした。熱いお湯が出る、水が飲める、こんなささいなことでも感謝できたらすごくいい生活になると思うので、どんなことにも不満をもたずに、今あるものに満足して過ごしていきたいです。

した。

立教百八十一年 三月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり	おつとめ	地方	役割						
												区分						
上原順子	今川佐智子	虫明好美	中村義太郎	佐藤道孝	谷内伸自	森本忠善	笹尾正治	吉岡誠一郎	門脇郁子	田中ますみ	大教会奥様	上原繁道	上原明勇	大教会長様	武内清明	岡崎真一	門脇元教	坐り勤
谷内美知子	武内正美	佐藤香苗	杉原博之	高木昭祥	山田敏教	横山逸郎	中村剛	今川昌彦	岡崎豊子	森本富美子	内海安子	三島志郎	上原志郎	門脇元教	上原繁次	渡邊隆夫	上原浩	前半
室悦子	三島照美	笹尾一美	佐藤真孝	岡田久誠	田林久嗣	今川昌彦	内海史郎	森本忠善	中村初美	横山小智榮	門脇加津	山野弘	中島誠治	上原明勇	虫明立生	浅野明教	田中隆之	後半

講話 上原明勇

祭主	大教会長様
扨者	岡崎真一
	上原浩

賛者	森本忠善
指図方	渡邊隆夫
	上原繁道

立教百八十一年 春季霊祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり	おつとめ	地方	役割						
												区分						
門脇加津	内海安子	田中ますみ	虫明立生	田林久嗣	高木昭祥	中島誠治	上原志郎	武内清明	高木孝子	上原順子	大教会奥様	上原浩	杉原博之	上原明勇	山野弘実	門脇元教	大教会長様	前半
田中つかさ	山野なつ	谷内美知子	岡崎治喜	中村剛史	上原繁次	佐藤真孝	三阪泰人	今川昌彦	吉岡八恵	岡崎和美	武内正美	本多正悟	丸山正人	福島大介	高田一弘	浅野明教	上原明勇	後半

祭主	大教会長様
扨者	三島涉
	山野弘実

賛者	武内清明
指図方	虫明立生
	佐藤道孝

三 月 月 次 祭 祭 文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の我が子を思う親心溢れるご守護と 大難は小難に小難は無難にとのお導きにより 日々は結構に恙なくお連れ通り頂いております 中でも今はあれほど厳しかった寒さも和らぎ 鶯の声や桜開花の声を聞く等 徐々に春を感じられるようになり 心も体も軽くなつたと思える事は 誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は常に成つてくるのが天の理と どんな中にもたんのうの心で親心のやさしさを感じ ご恩報じを願つて朝夕のおつとめを通して御礼を申し上げると共に にをいがけ・おたすけに依つて助け一条のご用の上に努め励まして頂いております

そんな中にも今日の吉日は おぢばよりお許し頂いた御祭日でございますので ただ今からおつとめ奉仕人一同喜び感謝とたすけ心も一入に 明るく陽気に勇んで坐りづとめ・てをどりをつとめて三月の月次祭を執り行わせて頂きます 同じく御前には今日の日を楽しみに寄り集い 相共にお歌を唱和し 尚も変わらぬ親心にお縋りし 助け一条に邁進する事をお誓い申し上げる皆の真実の状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さておぢばで開催の後継者講習会もあと二十五次開催分を残すのみとなりました 一人でも多く参加して貰えるようしつかりと声掛けをしていくと共に 参加して良かったと喜ぶだけではなしに 教祖の手足としてたすけ一条に邁進し 教会を支える人材に育つよう丹精させて頂く所存でございます 又年度末にあたり進級・進学・就職・配置替え等多くの人が人生の転機を迎え期待と不安に胸を膨らませています こんな時こそ教会に足を運び親神様・教祖・祖霊様に心を繋ぎお礼を申し上げる事が大切と教え導いて行きたいと思ひます その一環として四月一日少年会おつとめまなび総会を開催させていただきます 更には又 四月十八日の教祖御誕生祭には誘い合わせて参拝させて頂き 翌十九日の第百回記念の婦人会総会には一人でも多くの会員が参加させて頂き 教祖百四十年祭に向け女性の徳分を活かし道の台として 育成の上に力を注いでいく事を誓い合わせて頂く所存でございます

何卒親神様には 陽気ぐらし実現を目指して精一杯にたすけ一条に励む皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上にも尚も自由のご守護を賜り 親心に触れ一列兄弟の理に目覚める人が弥増し 欲を忘れて万互いに助け合つて お望み下さる陽気ぐらしの世の中に一日も早くお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

大教会だより

◎第九二期修養科

自 立教181年1月9日
至 立教181年3月27日

*教 養 掛

一ヶ月目 吉 岡 誠一郎
(興明分教会長)

仙 田 公 男

(天場山分教会長)

二ヶ月目 上 原 繁 次
(陶山分教会長)

渡 邊 孝 信

(神驛分教会長)

三ヶ月目 中 村 道 徳
(照陽分教会長)

武 内 清 和

(香地葉分教会長)

*修 了 者

稲 倉 大 月 勇 樹



喜びや感謝を表現することは、大切なことだと思ひます。日常に起こる小

春季 霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます本席様の神霊 初代真柱様並びに奥様の神霊 二代真柱様の神霊 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の神霊 初代会長上原さと刀自の神霊 二代会長上原伊助大人光刀自の神霊 三代会長上原繁雄大人くに多刀自の神霊 四代会長上原郁雄大人朝子刀自せい子刀自の神霊 歴代会長と共にたすけ一条の艱難苦勞の道を歩んで下さった役員 部内教会長 教人 よふぼく信者の神霊 諸々の神霊の前に 会長 上原理一慎んで申し上げます

祖霊様方には親神様教祖のお見定めによりそれぞれに句を得てこの道にお引き寄せ頂かれ 以来「いんねんの自覚」そして「人助けて我が身助かる」との教えのままにたすけ一条の上に真実を伏せ込まれました 今日笠岡の結構な姿をお見せ頂いていますのは ひとえに親神様教祖のご守護お導きの賜でございますが 又一つには祖霊様方が教祖を慕い ひながたこそ真実に助かる道とおたすけに真実を伏せ込まれたお陰と 朝夕に御礼を申し上げております

その中でも本日は春の霊祭を執り行う日柄でございますのでただ今は親神様の御前にててをどりを勤めてお礼を申し上げ 引き続き御前に席を移し祖霊様にも改めてお礼申し上げます 御前には海川山野の多米津物を供え 在りし日の面影を偲び御遺徳を称える皆の真実の状をご覧下さいます 祖霊様方にもお喜びご安心下さいます ようお願い申し上げます

さて教祖百四十年祭に向けての成人の歩みは二年目になり 加えて来年から立教百八十四年の大教会創立百三十周年記念祭に向けての歩みも始まりますので 今年はその理作りをすべくたすけ一条の御用の上に努め励ませて頂きたいと思ひます 又育成の句という事で後継者講習会が開催されましたが おおぼで育成のきつかけを与えて下さったと思索し 本当の育成はこれから始まるとの認識の元 会長始め教会に繋がる皆で育成の思いを持ち力を注いでいく所存でございます

何卒祖霊様方には 親を慕い親に喜んで頂き安心して貰えるようにと 親孝心一筋にたすけ一条に励む皆の誠真実の心をご覧下さいまして 万たすけの上に親神様教祖の自由の御守護を賜り 人助けでしか味わえない喜びを感じさせて頂いて より一層勇んでたすけ一条の歩みが進められるようお力添えの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

さな出来事にも感動し、感謝の気持ちを表すことができることは、素晴らしいと思ひます。私は、あまり喜怒哀楽を表に出すことが少ないので、そのような方に会うと感心してしまいます。その方がいるだけで場が盛り上がり、会話も弾み、心まで前向きになれるような気がします。

「たすけあい」という言葉が私は大好きです。とてもいい言葉だと思います。何故なら、お互いが共に「たすかる」道へ進むからです。言葉一つでも、周りで頑張っておられる方に声をかけたら、お互いが元気になれると思います。

四月は、色々な節目の月スタートです。学校や仕事に、また沢山の出会いがあります。お互いが励まし合って認め合うことで信頼が生まれ、共に喜びを感じられるでしょう。助け合って、同じ時間を過ごすことで楽しい日々を送ることができるとしよう。

それには素直な心が必要でしょう。素直に与えを受入れ、素直に喜びを伝えることが大事なことでないでしょうか。

毎日の生活の中で、自然に喜びや感謝の気持ちを表現できるよう、過ごしていけたらと思う今日この頃です。